

1 研究背景と目的

背景：50,000 m³規模の液化水素貯槽の設置 **世界初**

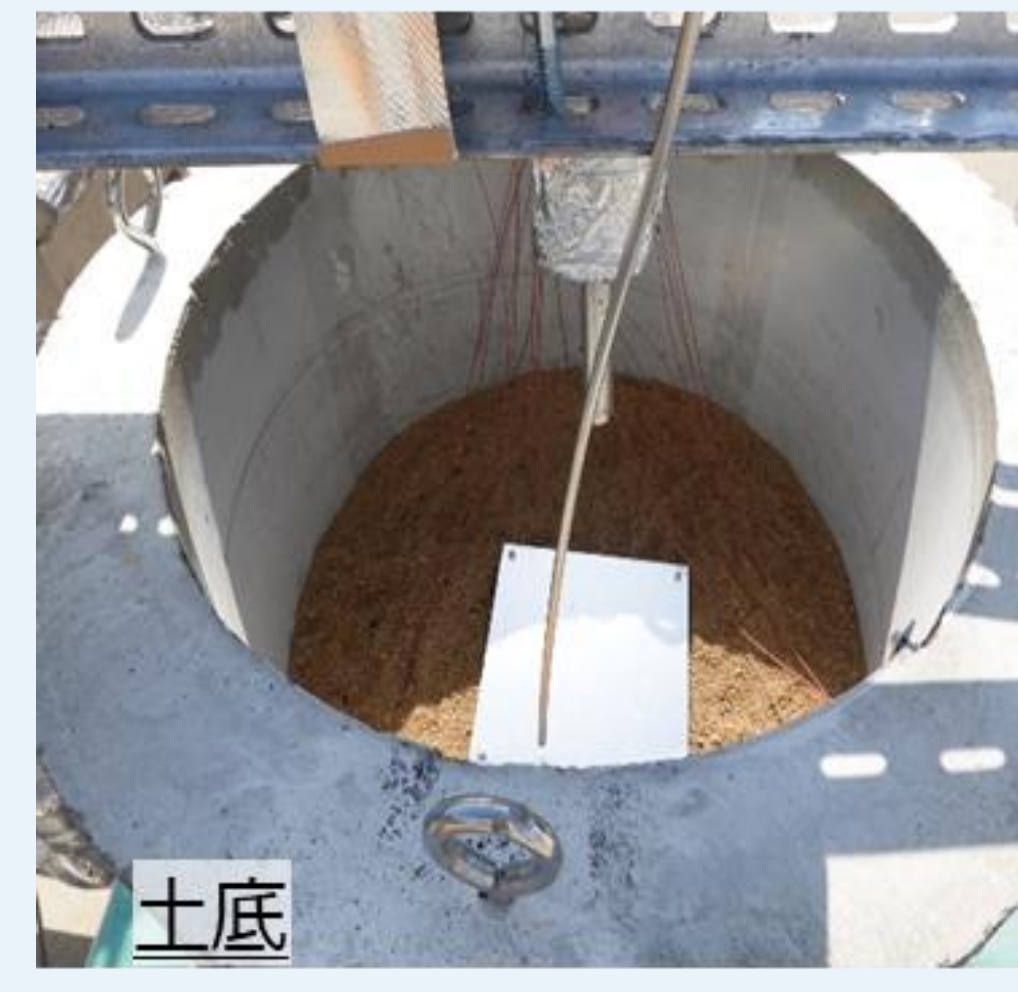
課題：液化水素の大規模漏洩を想定したデータが不足

目的：影響評価手法の確立と保安基準の整備見直し

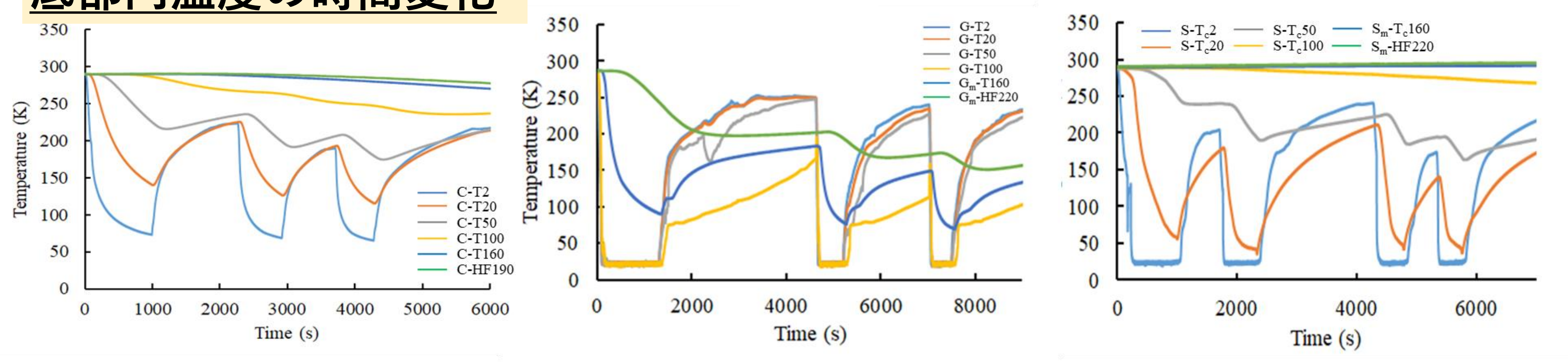
2 2024年度の実施内容と主な成果

小規模LH₂漏洩実験によるデータ取得：

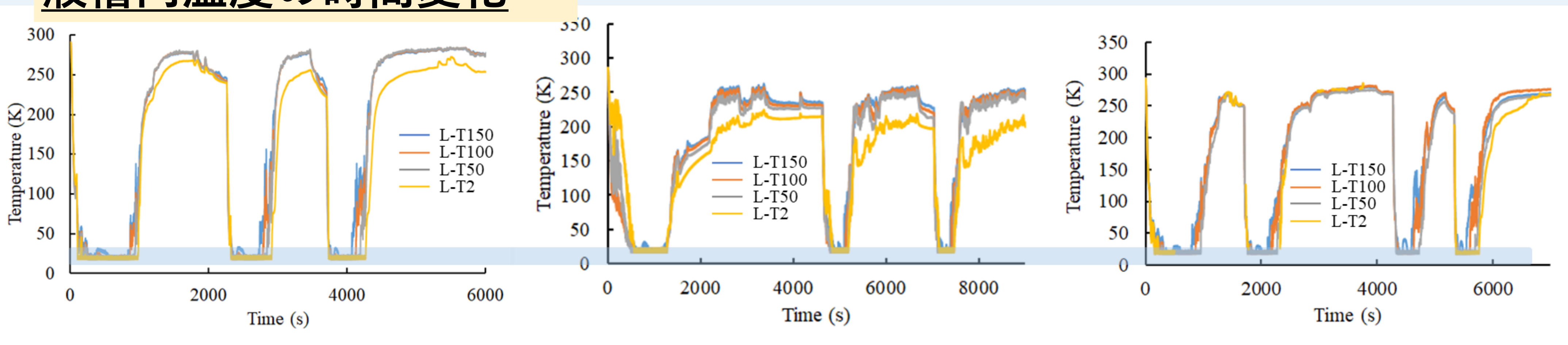
LH₂が防液堤に漏洩したことを模擬した実験を実施
使用したコンクリート容器及び底部材料



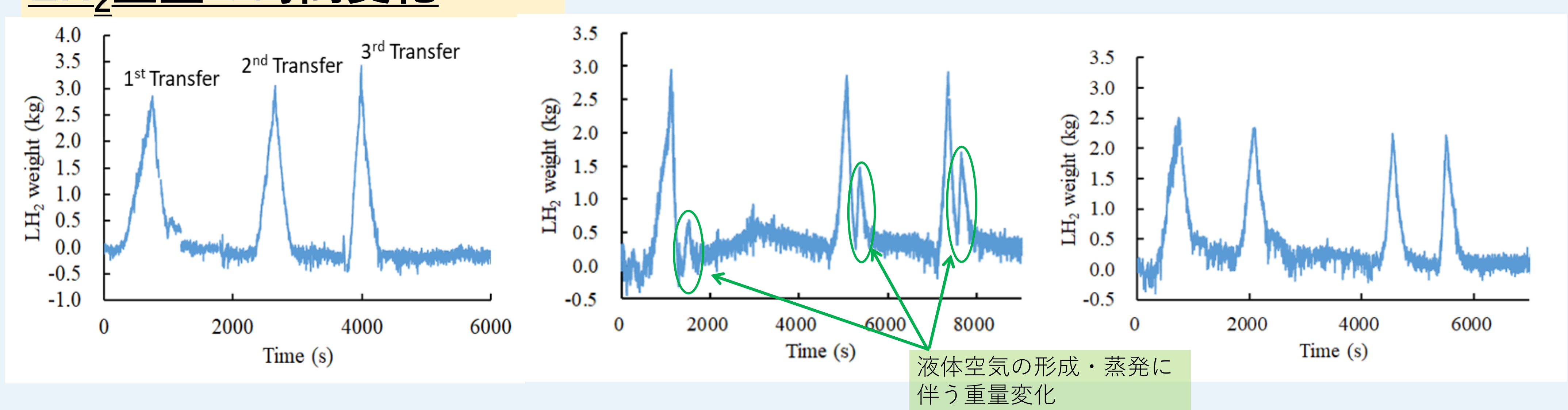
底部内温度の時間変化



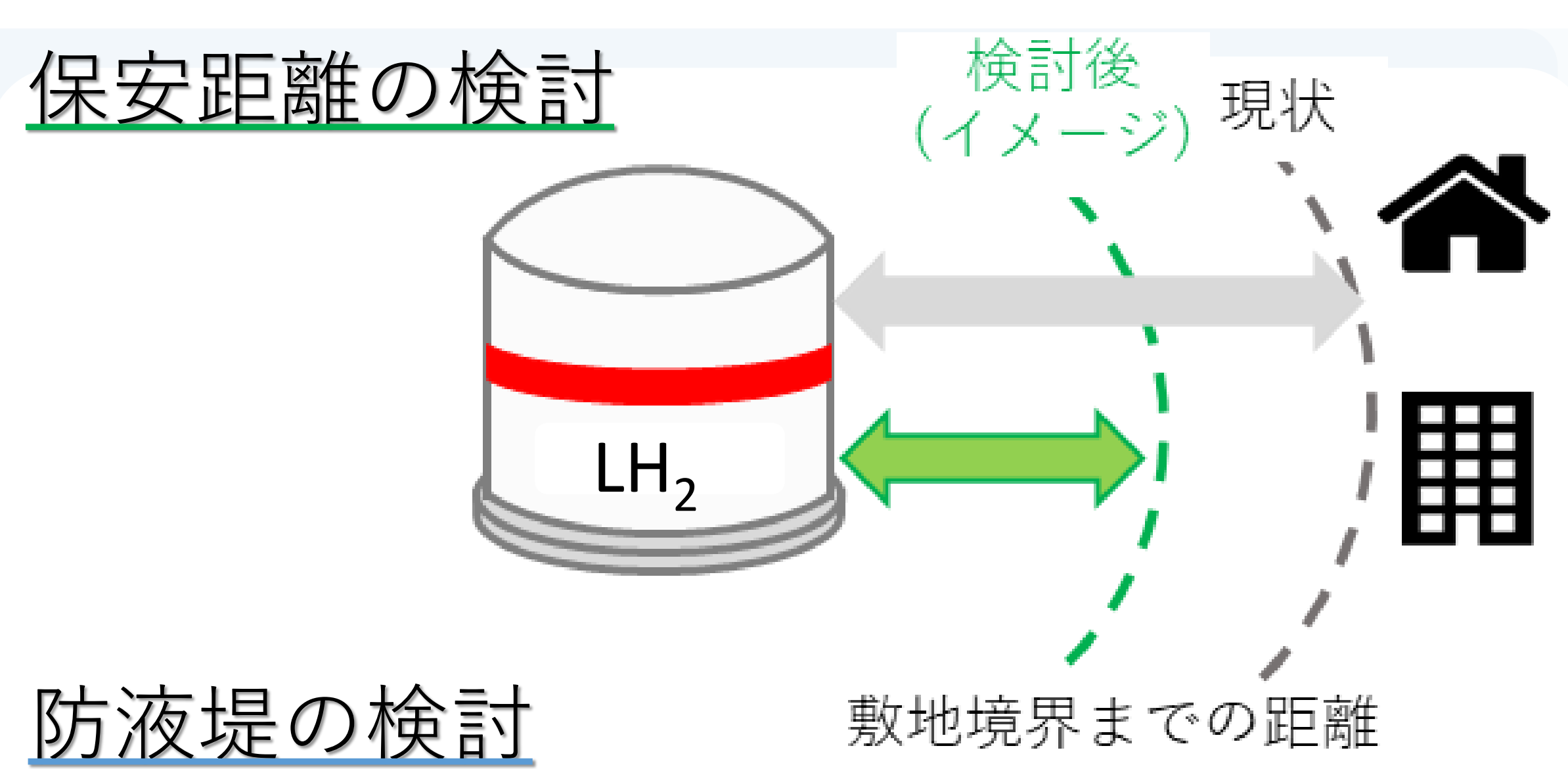
液槽内温度の時間変化



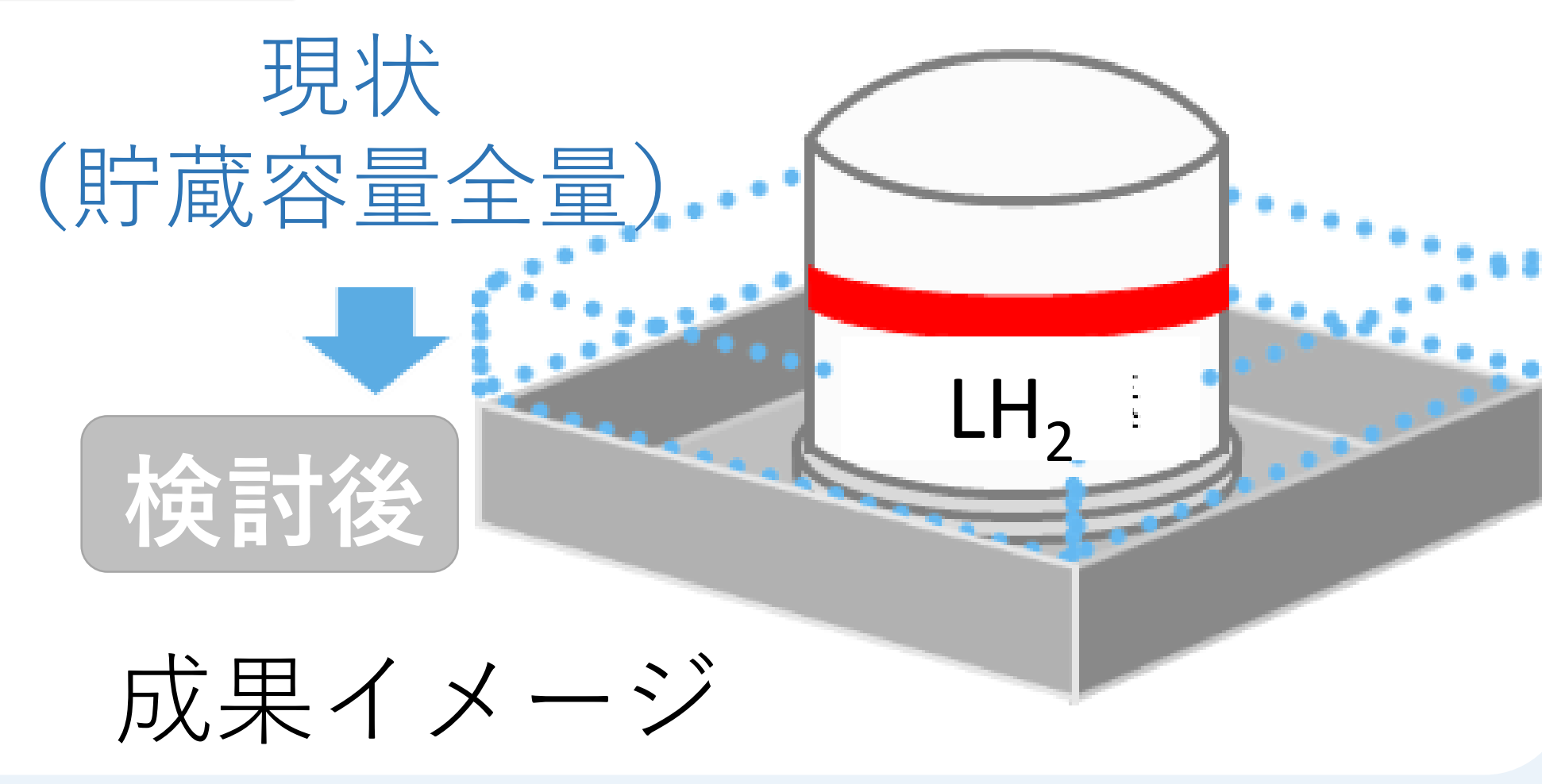
LH₂重量の時間変化



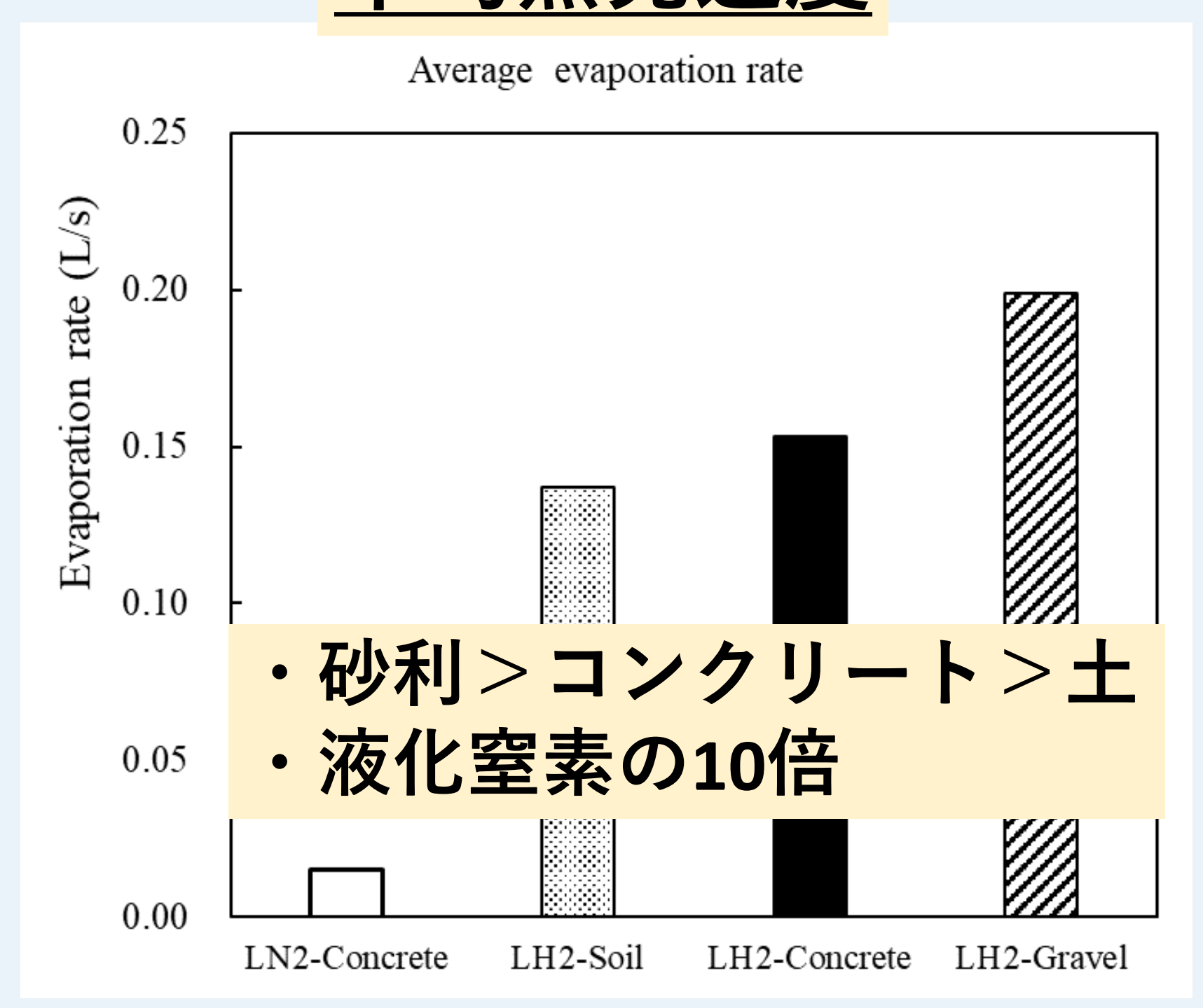
保安距離の検討



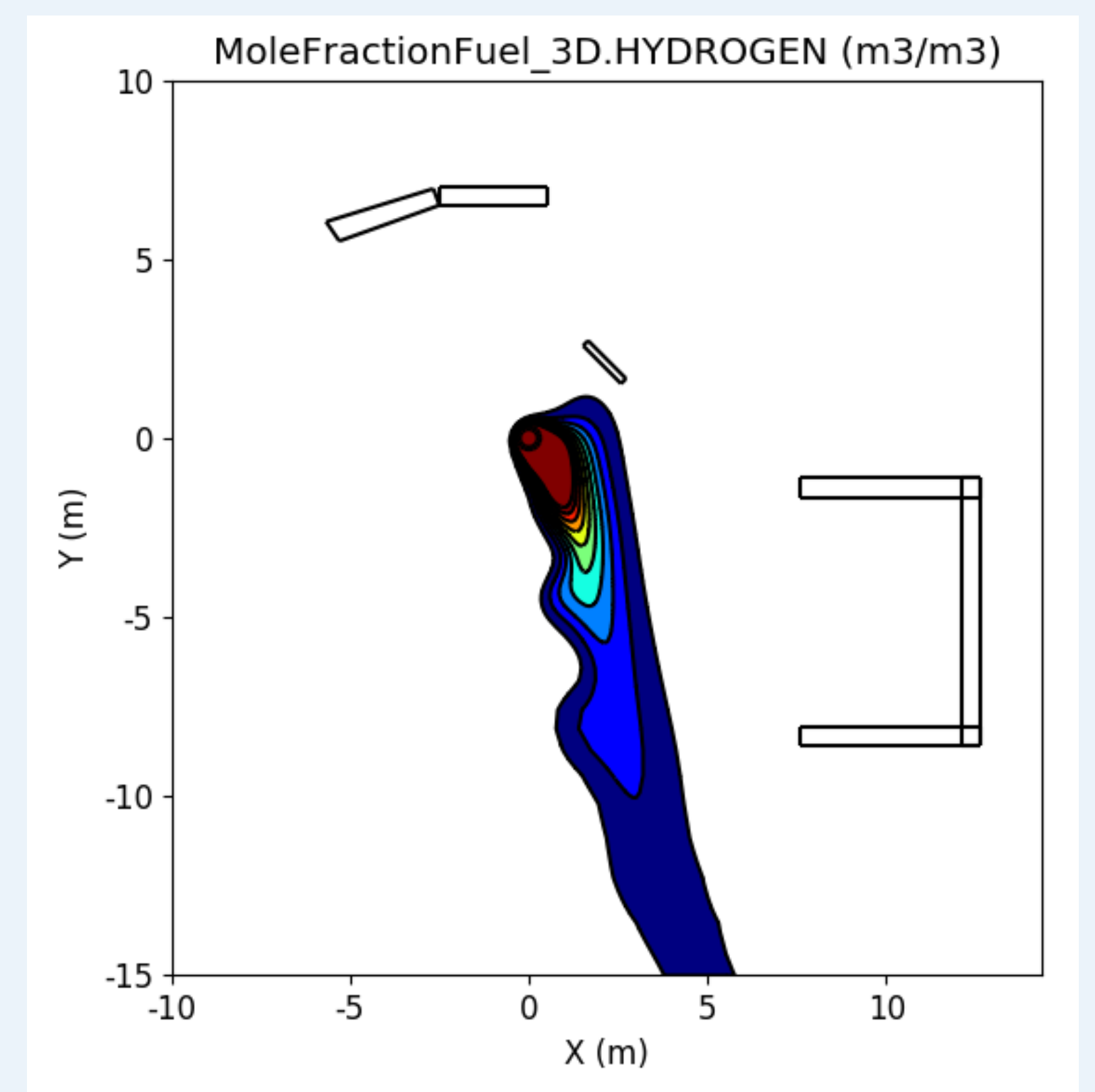
防液堤の検討



平均蒸発速度



シミュレーションモデル構築



大規模実験データの獲得
に向けて実験施設を整備
(9月実験開始予定)

3 今後の展望

- ✓ 大規模実験によるバリデーションデータの取得、実規模シミュレーション
- ✓ 技術基準の見直しに係る情報整理・とりまとめ